

レイラインがつなぐ 「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

「レイライン」とは、 夏至の朝日が照らす光の線

レイラインは、「大日如来(太陽)」を安置する信濃国分寺と「国土・大地」を御神体とする生島足島神社を直線状に結んでいる朝日が照らす光の線のことです。



日本遺産



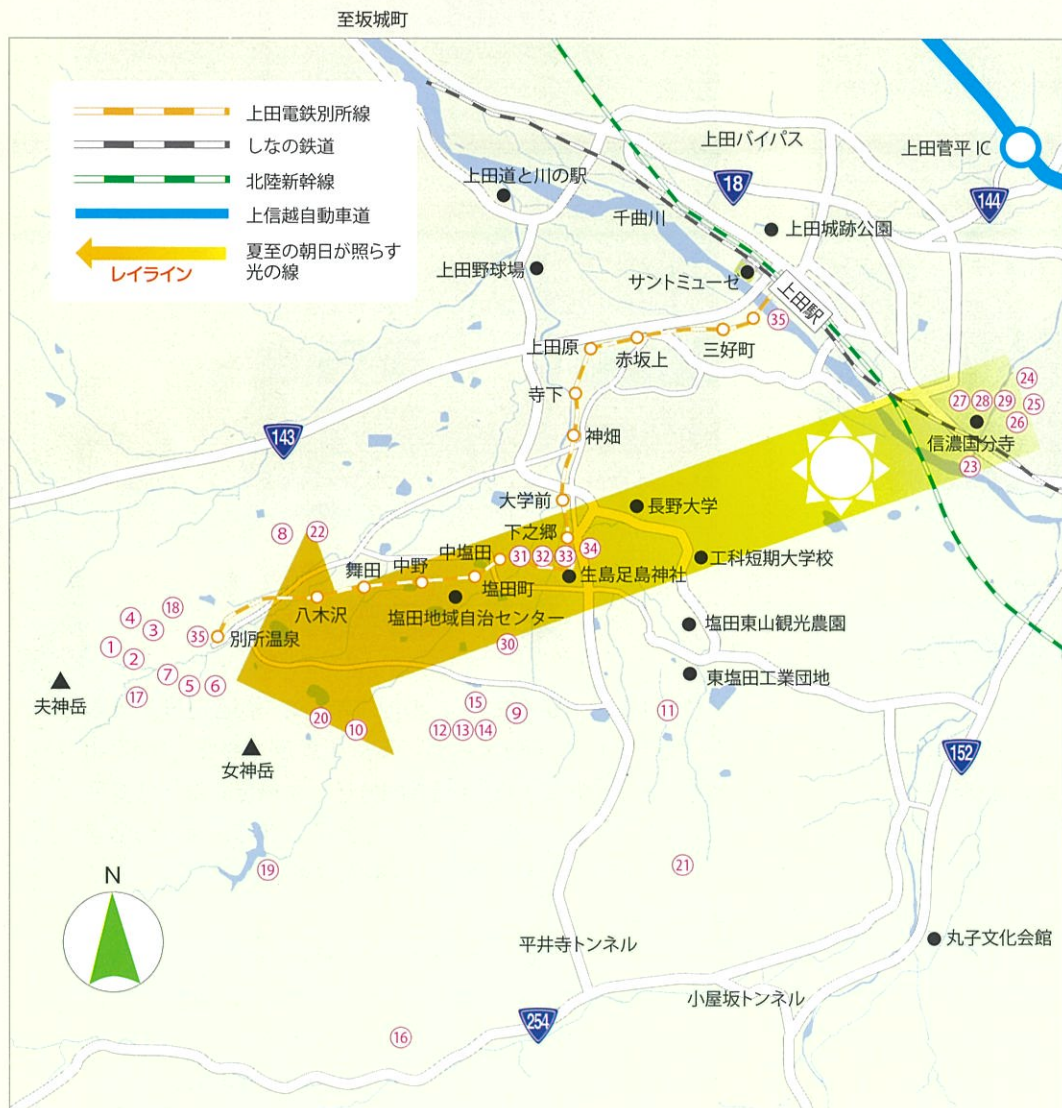
日本遺産

令和二年
日本遺産認定

レイラインがつなぐ 「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。山のふもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来(太陽)」を安置する「信濃国分寺」は、一本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。



【構成文化財一覧】

- 信州の学海**
 - ① 安楽寺八角三重塔
 - ② 木造惟仙和尚坐像・木造恵仁和尚坐像
 - ③ 常楽寺本堂
 - ④ 常楽寺石造多宝塔
 - ⑤ 北向観音堂
 - ⑥ 善光寺地震絵馬
 - ⑦ 愛染カツラ (別所五木)
 - ⑧ 舞田の石造五輪塔
- 神宿る「山」への祈り**
 - ⑨ 前山寺三重塔
 - ⑩ ちがい石とその産地
 - ⑪ 西光寺阿弥陀堂
 - ⑫ 中禅寺薬師堂
 - ⑬ 中禅寺木造薬師如来坐像
 - ⑭ 中禅寺木造金剛力士像
 - ⑮ 前山塩野神社拝殿及び本殿
 - ⑯ 法住寺虚空蔵堂 附 厨子
 - ⑰ 別所温泉の岳の織行事
 - ⑱ 別所神社本殿 (神楽殿) (本朝縁結大神祠)
 - ⑲ 鞍が淵と蛇骨石
- 祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」**
 - ⑳ 千駄焚き・百八手
 - ㉑ 奈良尾石造大姥坐像
 - ㉒ 保野の祇園祭
- 未来への懸け橋**
 - ㉓ 信濃国分寺跡
 - ㉔ 信濃国分寺本堂
 - ㉕ 信濃国分寺三重塔
 - ㉖ 信濃国分寺石造多宝塔
 - ㉗ 牛頭天王祭文
 - ㉘ 上田市八日堂の蘇民将来符 頒布習俗
 - ㉙ 八日堂縁日図
 - ㉚ 泥宮
 - ㉛ 生島足島神社本殿内殿
 - ㉜ 生島足島神社摂社諏訪社本殿
 - ㉝ 生島足島神社文書
 - ㉞ 長福寺銅造菩薩立像
 - ㉟ 別所線の鉄道施設

■お問い合わせ 上田市日本遺産推進協議会

事務局 / 上田市役所 政策企画部 交流文化スポーツ課
TEL.0268-75-2005
E-mail: koryusports@city.ueda.nagano.jp

■文化財に関する問い合わせ
上田市教育委員会 生涯学習・文化財課
TEL.0268-23-6362
E-mail: shogaku@city.ueda.nagano.jp

日本遺産関連情報は
下記QRコードから



日本遺産関連情報は
下記QRコードから



長野県上田市

レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」物語

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

弘法大師ゆかりの前山寺



安楽寺八角三重塔

別所温泉の岳の幟行事



ささら踊り(岳の幟)

独鈷山と舌喰池



前山寺三重塔

別所線の千曲川橋梁



レイラインに沿って走る別所線



日本遺産とは、文化庁が認定した、地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーであり、各地域の魅力あふれる有形・無形の文化財群を、地域が主体となって整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図るものです。(全国104件、県内4件認定)

「信州の学海」

上田は、険しい山々に囲まれた盆地ゆえに、本州では一番雨の少ない地だ。「おてんとうさま」が毎日のように微笑み、穏やかな気候という特徴は、信濃国分寺が置かれたこと、鎌倉北条氏の一派が終の棲家としてここを選んだ理由でもある。

塩田平には数多くの寺社が建てられ、中国の高僧や多くの学僧が訪れたのは、山を背に構える別所温泉があったことが大きい。豊かな湯で心まで洗われる温泉の楽しみがあったからこそ、僧たちは、この地を訪れたのであろう。

別所温泉にある安楽寺を訪れてみると、薄暗い木立の中、見上げるように階段を登った先に、日本唯一の木造八角三重塔が目飛び込んでくる。微かな光の方向に仰ぎ見る屋根裏の華やかな木組みは、私たちが自ずと厳かな気持ちにさせてくれる。しかも「四重塔」にも見える不思議な形だ。

また、北向観音堂は、善光寺と「両参り」すると御利益が増すという。境内の手水(ちょうず)までも温泉を使い、湯煙が立ち上がる境内には温泉の匂いが漂う。見晴台に立つと、塩田平から市街地までを見渡せ、我はこの地に降り立ったのだ、という気持ちにさせられる。この地が僧たちにとって「特別な場所」であり、「別所」と名付けられたことも納得できる。湯煙が漂う地に花開いた仏教文化の遺産は、湯浴みの効能のみならず、訪れる人々を癒している。

神宿る「山」への祈り

上田の雨が少ない気候は、風雨が引き起こす災いからこの地の暮らしを守ってきた。しかし、それゆえに神は時として干害などの試練を課してきた。人びとは水源となる山々に神を崇め、祈り、恵みの雨を願った。

500年以上も続く雨乞いのまつりである「岳の幟(たけのぼり)」は、色鮮やかな幟が特徴的だ。「下り龍」を描いた幟で、夫神岳山頂に祀られた「龍「オカミ」と呼ばれる九頭龍神を山麓の別所神社までお連れする。龍をかたどったたくさんのお幟を迎えるのは、三頭獅子とささら踊りの子どもたち。カラフルな幟と衣装が鮮やかに映え、山間に歌声と太鼓の音が響くころには、本当に、龍からの雨に恵まれる。

山には、古より受け継がれてきた水への憧れと神への畏怖が投影される。龍が宿るこの山は、山菜や松茸など、山の幸をはぐくみ、マツタケ小屋の隆盛につながっている。

祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」

塩田平はため池を造って水を蓄え、ここで温めた水を田んぼに入れて稲の生長を促し、「塩田三万石」と呼ばれる上田随一の穀倉地帯へと変身した。ため池でも「百八手」と呼ぶ雨乞いのまつりが行われる。池の周りを大勢で囲んで「たいまつ」に火をつけ、もくもくと上がる煙のなか「アメフラセタンマイナ」と唱える。ため池は稲穂をはぐくむだけでなく、マダラヤンマなどの命もつないできた。人柱やカッパなどの伝説は、ため池にも神を崇めていたことをうかがわせる。

雨を願う人びとは、時に荒療治として路傍のお地藏様を川へ放り込んだ。ここでも祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」。お地藏様を怒らせてでも、龍(雨)との再会を願っていた。

独鈷山と夫神岳、そして麓の寺社は、常に塩田平の人びとの暮らしに寄り添ってきた。そして、路傍のお地藏様は、また川に投げ込まれないかと心配して、今日も雨雲を待ちながら空を見上げている。これが「山に神、野に仏」とも言うべき、上田の人びとがつかないできた「祈りのかたち」だ。

未来への懸け橋

このように塩田平には、この地を特別な「聖地」とする景観が遺されている。国土・大地を祀る「生島足島神社」、「大日如来(太陽)」が安置された「信濃国分寺」。生島足島神社は夏至には太陽が東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居に沈む。太陽と大地は、この神秘的な光景をレイラインとして現代に遺した。

そして、この「太陽と大地の聖地」に重なるように遺したもうひとつの景観が、100年前から守り続けてきた鉄道・別所線だ。生島足島神社から、別所温泉までの軌道は、不思議なことにレイラインと一致する。そして、駅をつなぐ線路は、空から見ると龍のかたちをしていると言われる。塩田の人びとは龍を特別な神として崇め、祀り、龍とともに生きてきたことを、別所線の軌道に投影して大切に遺してきたのだ。龍の背に乗ってめぐる「太陽と大地の聖地」は、これからも、まぶしいばかりの輝きとぬくもりをもって、訪れる人の心に光を与えてくれるだろう。